

～ § 2 みなと振興～

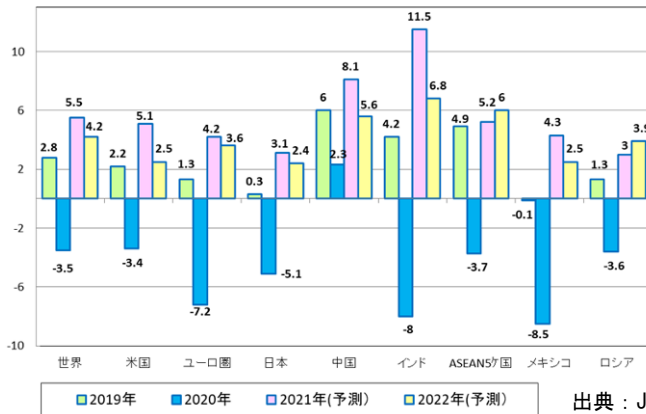


I プランの方針

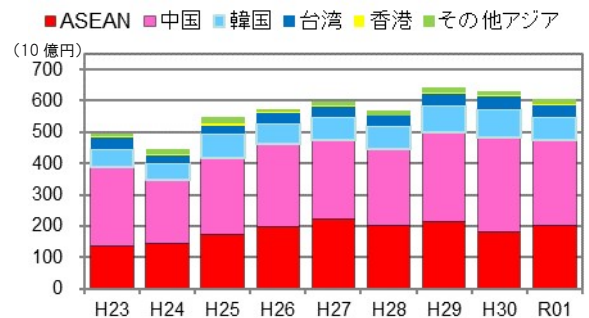
1 みなとを取り巻く環境

- 世界の情勢として、これまでの欧米や中国を中心とした海外市場にとどまらず、アジアの各地域の経済成長をはじめ、多くの新興国における経済活動が活発化しており、東南アジア地域との経済的な結びつきが強まってきている。日本企業の海外における拠点進出など企業活動のグローバル化により、経済の相互依存関係や交易が拡大しているとともに、これらの国や企業との新たな競争が激しさを増している。
- また、海外の港湾では、急速に進化する IT 技術を活用して、港湾・貿易手続きの更なる効率化の取組が活発化しているため、国策として、港湾の完全電子化と港湾関連データ連携基盤の構築やデジタル技術を活用した世界水準の生産性と良好な労働環境を有するターミナルの構築に向けた取組が進められている。
- 他方、近年の訪日外国人旅行者は急増し、アジアを中心とした大型クルーズ客船や欧米をと中心とした中小型クルーズ客船による、臨海部への観光客の来訪は、地域の雇用や活力を創出し、観光業をはじめとした地域の振興が図られ、豊かな地域づくりに資することから、魅力的な港湾空間の形成が求められている。
- 今般の新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況となっているが、国やクルーズ業界では利用者に対する安全確保に向けたガイドラインの検討や策定が進むなど、利用回復に向けた取組が行われていることから、今後においても地域経済の活性化に資するクルーズ客船の寄港・誘致を促進するとともに、瀬戸内の島々の魅力に触れ合える観光型高速クルーザーの就航など海からの国内外訪問客に対応した多様な受入環境の整備が求められている。
- このような環境のなか、物流の効率化、産業の国際競争力の強化、効率的で安全性の高い輸送体系の構築、地域が持つ資源や魅力の活用など、幅広い機能の発揮が求められており、施設整備等のハード面の施策と港湾施設の効率的な運営等のソフト面の施策を総合的に推進することが重要となっている。

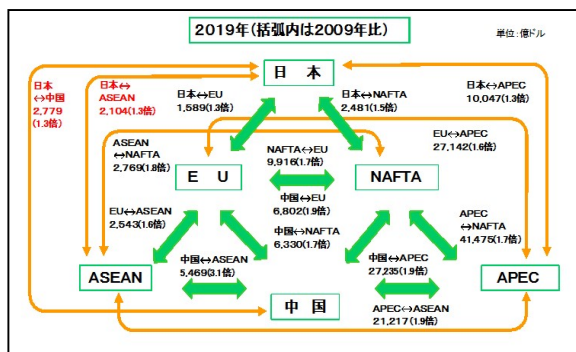
◇ アジア地域等の GDP 実質成長率



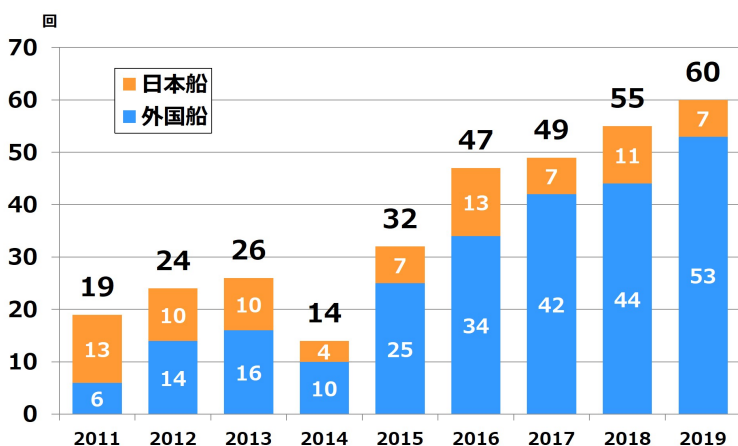
◇ 広島港のアジア取引国別貿易額の推移



◇ 東アジア地域等との2国・地域間貿易額（輸出+輸入）



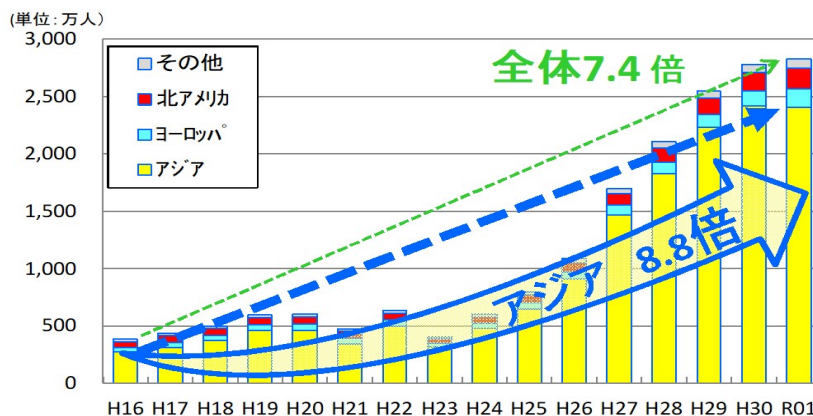
◇ クルーズ客船寄港状況（広島港）



出典：広島県港湾振興課調べ



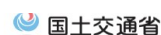
◇ 訪日外国人観光者数の推移（国籍別）



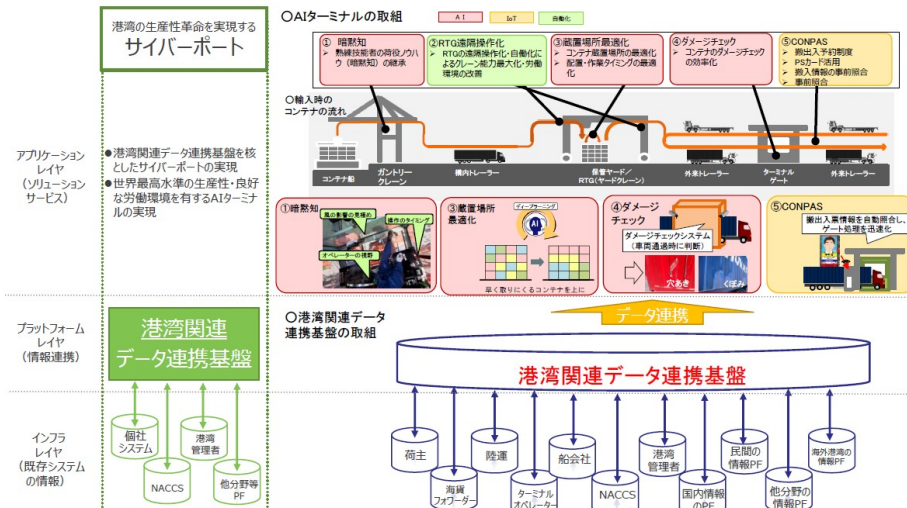
出典：日本政府観光局 (JNTO)

◇ 国における港湾のIT関連政策（サイバーポート推進委員会資料より抜粋）

港湾におけるIT関連政策の全体像



○ 港湾関連データ連携基盤を核として、「CONPAS」(横浜港で実証中)をはじめとする各種施策を一体的に推進することで、匠の技とITが融合した世界最高水準の生産性と良好な労働環境を有するAIターミナルを実現。



出典：国土交通省
港湾の電子化（サイバーポート）推進委員会資料

2 みなとにおける現状（強みと弱み）

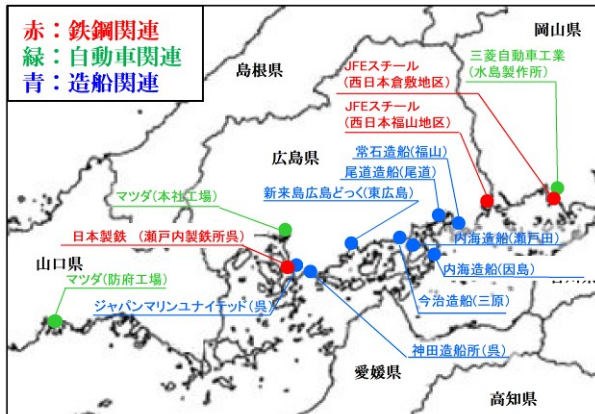
□みなとの「強み」

- 成長が著しい東アジアに近い地理的優位性
- 空港・港湾・道路網の発達した広域交通ネットワーク
- 臨海部に鉄鋼，自動車，造船などの基幹産業が立地
- 中四国地方で唯一5万トン級のコンテナ船が係留可能
- 国内有数の自動車・鉄鋼・造船関連企業を有する広島港・福山港
- 国内有数の原木輸入拠点においてバイオマス燃料の輸送・保管も担う尾道系崎港
- 厳島に代表される歴史・文化資源などが点在
- 全国一のプレジャーボート隻数
- 中四国地方の中で定期航路網が充実
- 瀬戸内海の多くの島々に囲まれた好漁場が多くかきの生産量は全国一

◇ 県境を越える井桁上の高速道路ネットワーク



◇ 臨海部に基幹産業が立地



出典: 数字でみる港湾 2019 より作成

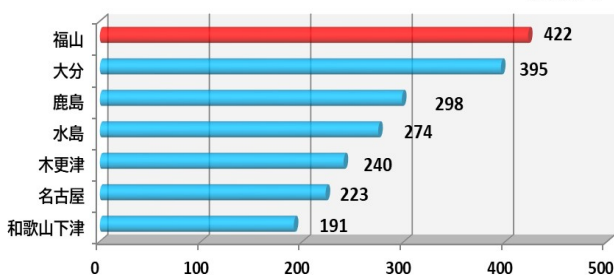
◇ 広島港国際コンテナターミナル



◇ 背後に全国最大級の鉄鋼メーカーを有する福山港

鋼材+鉄鋼 輸出入取扱量上位7港(R1)

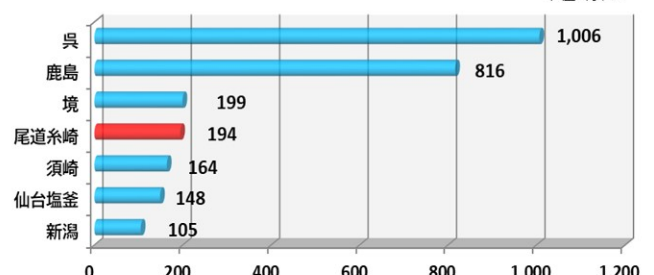
単位: 万トン



◇ 全国有数の輸入原木取扱拠点を有する尾道系崎港

原木 輸入取扱量上位7港(R1)

単位: 万トン



◇ 中国地方の主な観光資源（歴史遺産・伝統文化資源, 芸術・文化資源）



世界遺産厳島神社を有する宮島

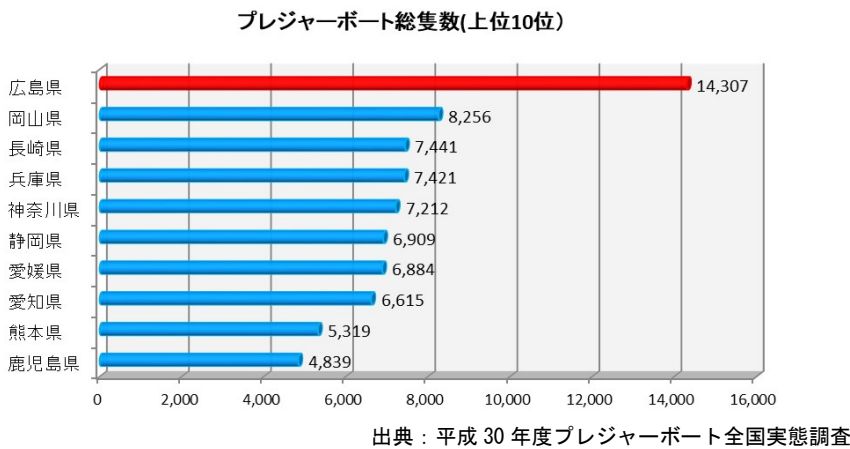


うさぎの島 大久野島

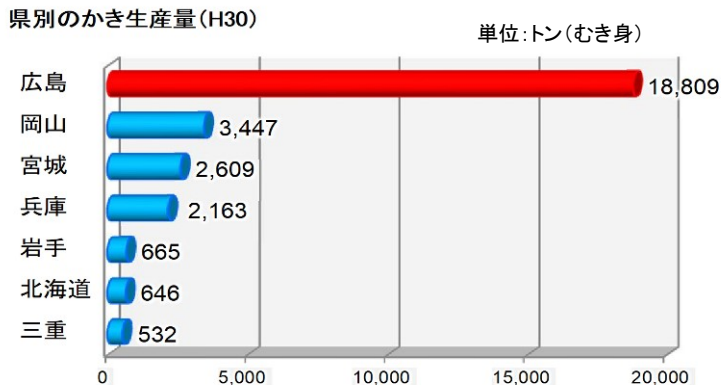


潮待ちの港 鞆の浦

◇ プレジャーボート総隻数（平成30年）



◇ 県別かき生産量ランキング

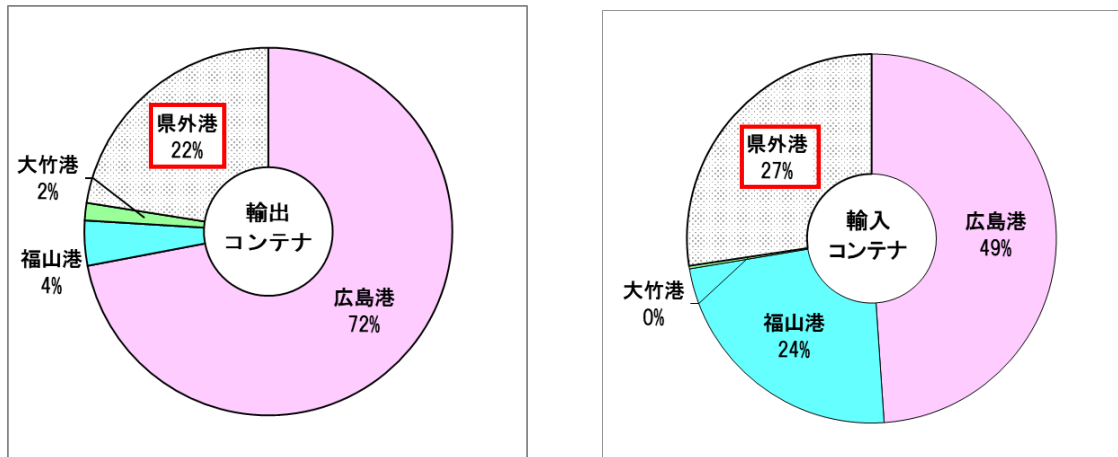


出典：農林水産省；漁業・養殖業生産統計年報（令和元年）より作成

□みなとの「弱み」

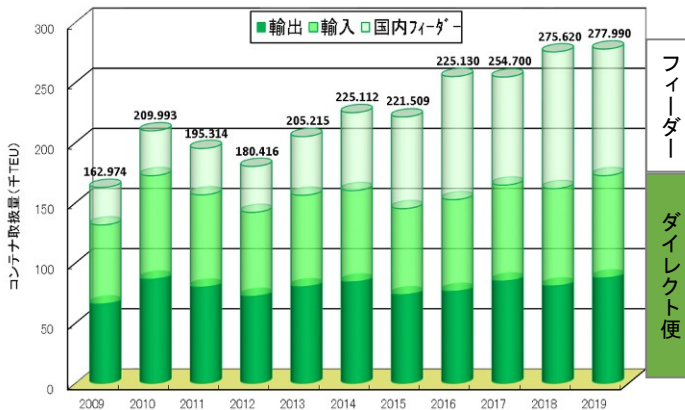
- 県内で生産・消費される輸出入コンテナ貨物の多くが県外港を利用
- コンテナ航路やクルーズ客船の誘致に対する近隣港との競争の激化
- 広島港臨海部の東西幹線道路未整備（ボトルネック）による交通渋滞の発生
- 観光地への海上アクセス基盤が脆弱
- 放置艇による環境悪化など弊害
- 耐震強化岸壁や物流関連用地の不足
- 島嶼部フェリーの減少による生活利便性の低下
- 漁業従事者の高齢化が進展
- 高度経済成長期に整備された多くの港湾・漁港施設の老朽化が懸念

◇ 県内で生産・消費される輸出入コンテナ貨物の県内港湾利用率



出典：H30 全国輸出入コンテナ貨物流動調査より作成

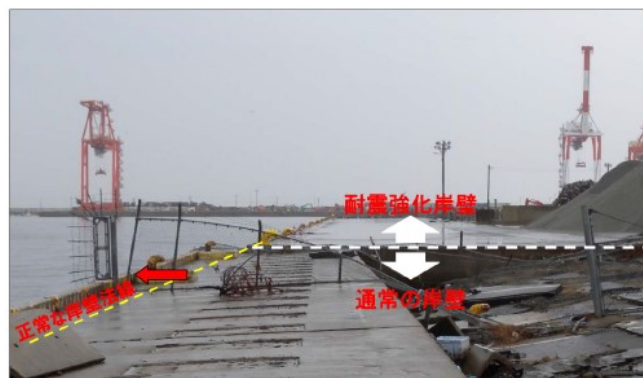
◇ 広島港コンテナ貨物量の推移



◇ 広島港（五日市・廿日市地区）臨港道路の渋滞



◇ 被災地における耐震強化岸壁と一般岸壁（事例）



出典：東日本大震災による各港湾の被災状況 写真集（国土交通省）

3 港湾・漁港が担う「目指す県土の将来像」 ～10年後の社会資本の目指す姿～

【安全・安心な県土づくり】～安全・安心を支える総合的な県土の強靱化～

減災・防災対策の充実・強化

- 港湾・漁港施設の耐震補強対策が進んでいます。
- 臨海部における防災拠点機能の充実・強化が図られています。

安全で快適な交通環境づくりの推進

- 生活航路等における安全で快適な利用環境の整備が進んでいます。
- 放置艇対策の推進(航行船舶の安全確保)が図られています。

【県の強みを生かした県土づくり】～交流・連携を支えるネットワークの充実・強化～

経済・物流を支える基盤の強化

- 臨海部における物流関連用地の造成, 港湾物流基盤の充実が図られています。
- 県西部の物流拠点における広島市東西を物流交通基盤の充実が図られています。
- ドライバー不足やモーダルシフト推進に対応する港湾機能の強化・サービスの充実が図られています。
- 効率的に多くの貨物を海上輸送するための物流基盤整備, 高度な流通加工等に対応したロジスティック機能の充実・強化が進められており, 瀬戸内海全体における最適な港湾物流ネットワークの形成が図られつつあります。

集客・交流機能の強化とブランド力向上

- 世界遺産「厳島神社」をはじめとする観光の玄関口における港湾施設の充実が図られています。
- 国内外クルーズ客船の誘致に向けた港湾施設整備, 寄港時のおもてなしの充実, PB等による海からの観光地訪問など新たなクルージングの推進が図られています。

【魅力ある持続可能な県土づくり】～魅力的で持続可能な社会を支える基盤形成～

コンパクトで持続可能なまちづくりの推進

- 歴史的遺構の価値保存を踏まえた護岸整備等による快適な海辺空間の提供や海の駅・みなとオアシス等を活用した臨海部の賑わい施設の充実が図られています。
- 島嶼部と本土を結ぶ海上交通結節点となる港湾機能の維持・充実や主要施設におけるバリアフリー化が図られています。
- 漁業活動の拠点となる港湾・漁港施設の機能維持・強化が図られています。

環境保全と循環型社会の構築

- 公共残土や浚渫土等の受入施設整備の推進が進められています。
- 藻場・干潟等の浅海域の保全・再生が図られています。
- バイオマス等自然・再生エネルギー燃料の効率的な輸送・保管を支援するための港湾機能の充実が進められています。
- 生活航路等における安全で快適な利用環境の整備が進んでいます。(再掲)

4 みなとの取り組むべき課題

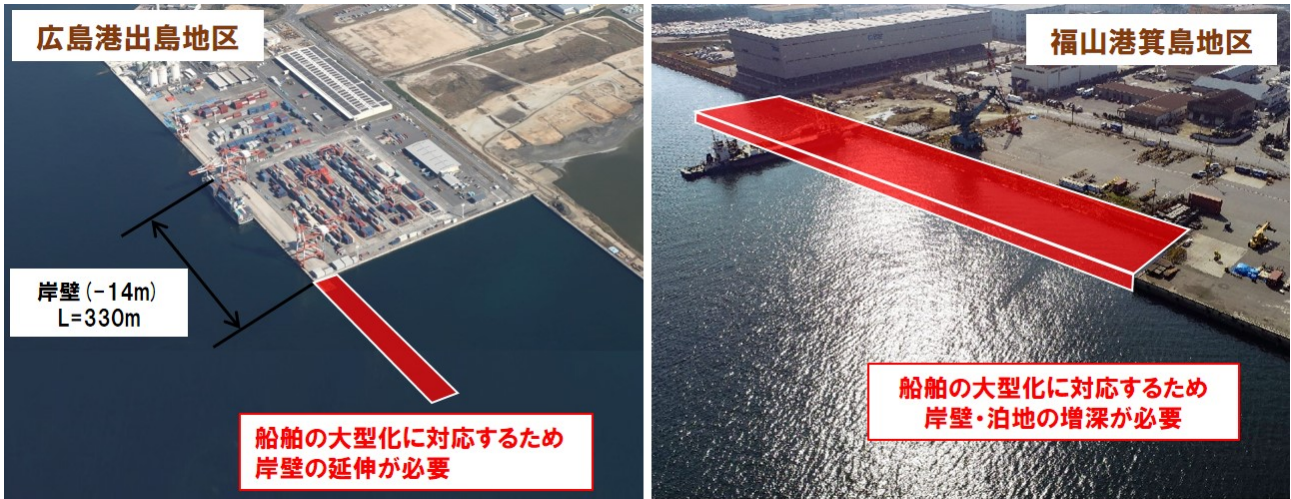
課題1 経済交流基盤を支える港湾機能の充実・強化

- ・ 企業活動のグローバル化や船舶の大型化，物流用地不足への対応が求められている。
- ・ 臨海部の土地需要の増大により，企業立地用地が不足している。
- ・ 交通渋滞を解消し，企業等の生産性向上に資する円滑な人流・物流ネットワークの構築が求められている。
- ・ 県内及び周辺地域の企業の多様なニーズに資する港湾物流ネットワークの形成や港湾物流サービスの構築等が求められている。
- ・ コンテナターミナル運営において，デジタル技術を活用した港湾機能の高度化や民間活力を生かした質の高い港湾サービスの提供が求められています。
- ・ 大阪万博など国際的なイベントの開催を見据え，観光地への玄関口となる港湾施設の機能強化が必要となっている。
- ・ 瀬戸内の島々が注目されている中，臨海部においても観光・交流拠点の魅力向上に資する新たな交流・賑わいの創出・充実に求められている。
- ・ 地域経済の活性化に資するクルーズ客船の誘致を促進するとともに，クルーズ客船の安全・安心な利用に向けた寄港時における感染症予防対策・体制の構築など受入環境の整備が必要となっている。

◇ 物流効率化，産業団地立地への対応（広島港廿日市地区・五日市地区など）



◇ 大型船舶への対応（広島港出島地区・福山港箕島地区など）



◇ 観光地への玄関口となる「みなと」の整備（厳島港宮島口地区・忠海港忠海地区など）



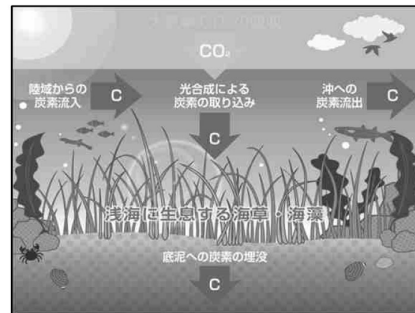
課題2 生活・暮らしを守る港湾・漁港機能の充実・強化

- ・藻場・干潟等による海域環境の保全・再生が求められている。
- ・耐震強化岸壁が不足しているなど、災害時における緊急輸送網の確保が急務となっている。
- ・切迫している南海トラフ地震の発生や近年の台風の大型化などを踏まえ港湾・漁港BCPの充実や産業活動のリダンダンシーの確保が求められている。
- ・災害発生土砂や公共残土・浚渫土等の受入施設が不足への対応が必要となっている
- ・誰もが安心して利用できるよう旅客施設のバリアフリー化を進めていく必要がある。
- ・島嶼部等では生活航路の維持、充実が地域の重要な課題である。
- ・プレジャーボート等の係留場所不足による無秩序な係船や放置艇の沈没船化が散見され、船舶の安全な航行や景観阻害が課題となっている。
- ・台風等の荒天時においても、港内の船舶が安全に係留できる機能の確保が求められている。

◇ 浚渫土砂を有効利用した干潟の造成（尾道糸崎港機織地区国際物流ターミナル整備事業）



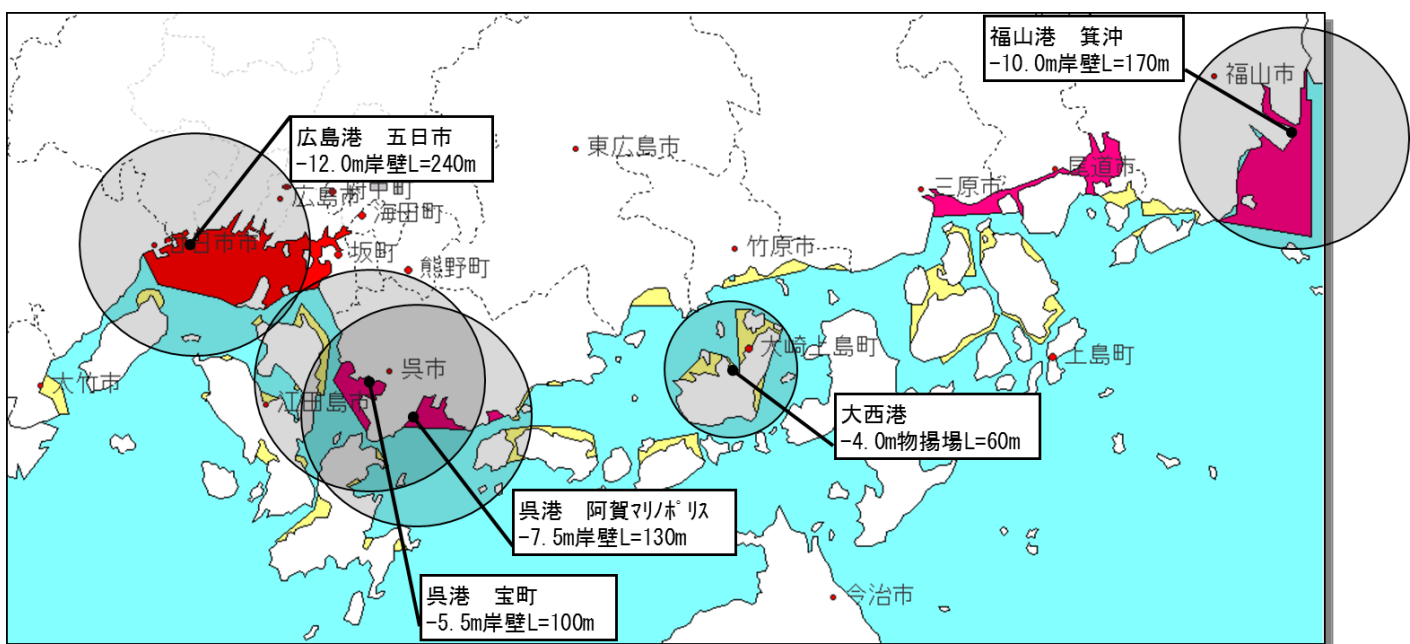
ブルーカーボン生態系によるCO₂吸収のしくみ (JBE資料)



国連環境計画 (UNEP) 報告書によれば陸より海の方が多くの炭素を吸収 (1.5倍程度と推定)

出典: 令和3年度港湾局関係予算概算要求概要 (令和2年9月国土交通省港湾局)

◇ 耐震強化岸壁の整備状況



※図中の港・施設は耐震強化岸壁

◇ 旅客施設の利便性・安全安心の向上（厳島港胡町地区など）

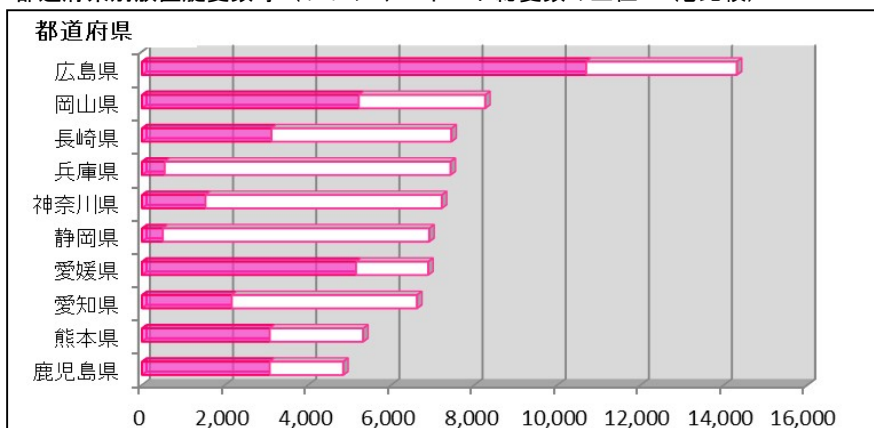


◇ 島嶼部等の生活航路の維持・利用環境の充実（大竹港小方地区・大西港大西地区など）



◇ プレジャーボート等の係留場所が不足

都道府県別放置艇隻数等（プレジャーボート総隻数の上位10港比較）



※グラフ中の桃色バーは、総隻数のうち放置艇隻数を示す
出典：平成30年度プレジャーボート全国実態調査



課題3 地域活動を支える港湾・漁港機能の充実・強化

- ・観光・交流拠点の魅力向上に資する臨海部の賑わいの場の充実が求められている。(再掲)
- ・島嶼部等では生活航路の維持，充実が地域の重要な課題である。(再掲)
- ・係留場所不足により干潮時の準備・陸揚作業が困難な状況となっており，円滑な漁業活動に支障をきたしている。
- ・担い手確保に資する就労環境改善のため，地域の産業活動を支える漁業施設などの安全性や利便性の向上に向けた取組が求められている。

◇ 臨海部の賑わいの場



◇ 小型船係留状況

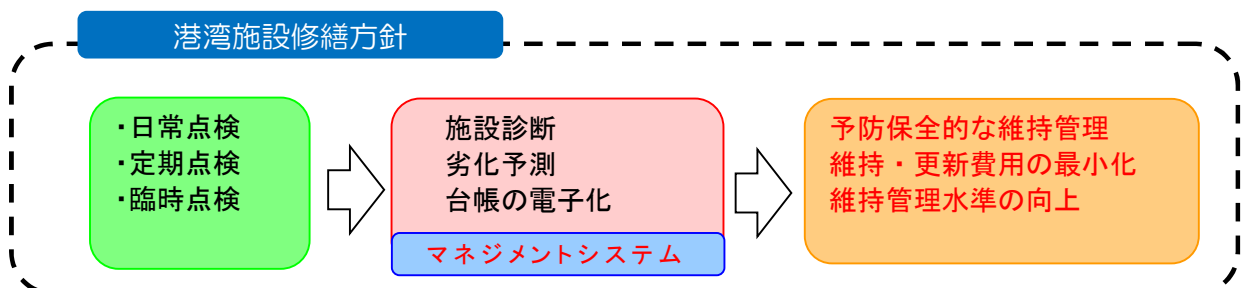


課題4 既存施設の有効活用及び老朽化施設の維持管理への対応

- ・「インフラ老朽化対策の中長期的な枠組み」，「修繕方針」等に基づく，戦略的な維持管理や更新が必要となっている。
- ・近年，世界の旅行市場に影響力を持つ複数の旅行雑誌から注目すべき旅行先として「SETOUCHI」が選出されており，海からの観光地訪問や瀬戸内海へのクルージングの促進等においては，港湾・漁港施設の利活用が必要となっている。
- ・老朽化・低利用化した施設の利用転換や再編などが必要となっている。
- ・県内及び周辺地域の企業の多様なニーズに資する港湾物流ネットワークの形成や港湾物流サービスの構築等が求められている。
- ・コンテナターミナル運営において，デジタル技術を活用した港湾機能の高度化や民間活力を生かした質の高い港湾サービスの提供が求められています。(再掲)

◇ 戦略的な維持管理の推進

- 『インフラ老朽化対策の中長期的な枠組み』の策定
⇒施設全体の維持管理をマネジメントする考え方を示したもの
- 『港湾施設の修繕方針』の策定
⇒「インフラ老朽化対策の中長期的な枠組み」に基づき，施設単位で修繕方針を示したもの



5 基本方針

次の4つの方針を基に今後5年間（令和3年度～令和7年度）の実施計画を策定し、これまでの成果や課題、社会情勢の変化や国が掲げる中長期的な政策等を踏まえて、利用者の視点・ニーズに対応したソフト・ハード対策を実施することにより、将来にわたって、地域の産業活動や安全で安心な暮らしを支え地域の持続的発展に貢献する「みなとづくり」を推進します。

□みなと振興プランの基本方針

方針1 物流・交流を支えるみなとづくり

（○：港湾， △：漁港）

（1）企業活動を支える物流基盤の強化

- 企業活動のグローバル化や船舶の大型化に対応するため既存施設を有効活用した大水深岸壁，航路・泊地の整備など港湾機能の拡充
- 生産性向上など企業活動を支える臨港道路整備や物流用地造成の推進 など

（2）交流・賑わい機能の強化

- 地域の活性化に資するクルーズ客船の誘致や受入環境の充実に必要なハード・ソフト対策
- △瀬戸内海や県内の魅力を生かした観光振興に資するみなと環境の整備 など

方針2 生活・暮らしを支えるみなとづくり

（3）防災・減災対策の推進

- △切迫する巨大地震に対する耐震岸壁の推進
- △地域水産業の災害発生後の業務継続に資する漁港BCPの策定 など

（4）安全で快適な海上交通機能の維持・充実

- 放置艇対策の推進に向けたハード・ソフト対策 など

（5）環境保全や資源循環を支援するみなと空間の創出

- 自然エネルギー燃料の効率的な輸送・保管を支援するための港湾機能の充実
- 災害発生土砂や公共残土・浚渫土等建設副産物の有効活用にあつする受入施設整備
- 海域環境の改善（藻場・干潟等）
- 環境負荷の少ない物流体系への転換（モーダルシフト）支援 など

方針3 地域活動を支えるみなとづくり

（6）生活交通，漁業活動の円滑化や魅力的なみなとまちづくりの推進

- △島嶼部など地域を支える生活航路の維持・充実
- △漁業活動の拠点となる港湾・漁港施設の維持・充実
- △地域の魅力を生かしたみなと環境の整備 など

方針4 港湾・漁港施設の有効利用・適切な維持管理の推進

（7）既存施設の有効活用

- 遊休施設など既存ストックを活用した新たなニーズへの利用転換
- 港湾施設の利用を促すサービスの充実やポートセールスの推進 など

（8）効果的で適切な維持管理の推進

- △デジタル技術を活用した効果的・効率的な維持管理の推進 など

□計画策定における課題と基本方針の関係

社会資本未来プラン
 ~社会変化に適応した
 インフラマネジメントの推進~

みなとの取り組むべき課題

広島県みなと・空港振興プラン 2021
 計画期間：R3~R7（5年間）

【目指す姿】
 ○県民が様々な場面において
 「安全・安心」や「サービス
 (利便性・快適性・生産性)」
 等の向上を実現できる社会

課題1 物流・交流を支える港湾機能の充実・強化
 ・欧米や中国を中心とした海外市場にとどまらずアジアの各地域の経済成長をはじめ、多くの新興国における経済活動の活発化により、これらの国や企業との新たな競争が激しさを増している。
 ・船舶の大型化により岸壁延長の不足や航路・泊地の水深不足により、非効率な輸送を強いられている。
 ・交通渋滞により、円滑な物流が阻害されている。
 ・物流用地、コンテナヤード不足への対応や質の高い港湾サービスの提供が求められている。
 ・BCPの策定や産業活動のリダンダンシーの確保が求められている。
 ・大阪万博等を見据え、観光地への玄関口となる港湾施設の機能強化が必要となっている。
 ・地域経済の活性化に資するクルーズ客船の誘致を促進するとともに、コロナ禍に対応した安全対策など受入環境の整備が必要となっている。
 ・観光・交流拠点の魅力向上に資する臨海部の賑わいの場の充実が求められている。

◆方針1 物流・交流を支えるみなとづくり
~企業活動を支える物流基盤の強化~
 ○企業活動のグローバル化や船舶の大型化に対応するため既存施設を有効活用した大水深岸壁、航路・泊地の整備など港湾機能の拡充
 ○生産性向上など企業活動を支える臨港道路整備や物流用地造成の推進 など
~交流・賑わい機能の強化~
 ○地域の活性化に資するクルーズ客船の誘致や受入環境の充実に必要なハード・ソフト対策
 ○△瀬戸内海や県内の魅力を活かした観光振興に資するみなと環境の整備 など

【施策体系】
【施策の柱】
施策Ⅰ
 ~安全・安心を支える
 総合的な県土の強靱化~
取組方針①
 防災・減災対策の充実・強化
取組方針②
 安全で快適な
 交通環境づくりの推進

課題2 生活・暮らしを守る港湾・漁港機能の充実・強化
 ・切迫している南海トラフ地震の発生や近年の台風の大型化などを踏まえ港湾・漁港BCPの充実や産業活動のリダンダンシーの確保が求められている。
 ・干潟等による海域環境の保全・再生が求められている。
 ・耐震強化岸壁が不足しているなど、災害時における緊急輸送網の確保が急務となっている。
 ・誰もが安心して利用できるよう旅客施設のバリアフリー化を進めていく必要がある。
 ・島嶼部等では生活航路の維持、充実が地域の重要な課題である。
 ・プレジャーボート等の係留場所不足による無秩序な係船や放置艇の沈没船が散見され、船舶の安全な航行や景観阻害が課題となっている。
 ・台風等の荒天時においても、港内の船舶が安全に係留できる機能の確保が求められている。

◆方針2 生活・暮らしを支えるみなとづくり
~防災・減災対策の推進~
 ○△切迫する巨大地震に対する耐震岸壁の推進
 △地域水産業の災害発生後の業務継続に資する漁港BCPの策定 など
~安全で快適な海上交通機能の維持・充実~
 ○放置艇対策の推進に向けたハード・ソフト対策 など
**~環境保全や資源循環を支援する
 みなと空間の創出~**
 ○自然エネルギー燃料の効率的な輸送・保管を図るための港湾機能の充実
 ○災害発生土砂や公共残土・浚渫土等建設副産物の有効活用に資する受入施設整備
 ○海域環境の改善（藻場・干潟）
 ○環境負荷の少ない物流体系への転換支援など

施策Ⅱ
 ~交流・連携を支える
 ネットワークの充実・強化~
取組方針③
 経済物流を支える基盤の強化
取組方針④
 集客・交流機能の強化と
 ブランド力向上強化

課題3 地域活動を支える港湾・漁港機能の充実・強化
 ・災害発生土砂や公共残土・浚渫土等の受入施設が不足しており、新たな受入施設の確保が費用となっている。
 ・観光・交流拠点の魅力向上に資する臨海部の賑わいの場の充実が求められている。(再掲)
 ・島嶼部等では生活航路の維持、充実が地域の重要な課題である。(再掲)
 ・小型船の係留場所不足などにより、円滑な漁業活動に支障をきたしている。

◆方針3 地域活動を支えるみなとづくり
**~生活交通、漁業活動の円滑化や魅力的な
 みなとまちづくりの推進~**
 ○△島嶼部など地域を支える生活航路の維持・充実
 ○△漁業活動の拠点となる港湾・漁港施設の維持・充実
 ○△地域の魅力を生かしたみなと環境の整備 など

施策Ⅲ
 ~魅力的で持続可能な
 社会を支える基盤形成~
取組方針⑤
 コンパクトで持続可能な
 まちづくりの推進
取組方針⑥
 環境保全と循環型社会の構築

課題4 既存施設の有効活用及び老朽化施設の維持管理への対応
 ・「インフラ老朽化対策の中長期的な枠組み」、「修繕方針」に基づく、戦略的な維持管理や更新が必要となっている。
 ・近年、世界の旅行市場から注目すべき旅行先として「SETOUCHI」が掲げられており、海からの観光地訪問や瀬戸内海へのクルージングの促進等においては、港湾・漁港施設の利活用が必要となっている。
 ・老朽化・低利用化した施設の利用転換や再編などが必要となっている。
 ・コンテナターミナル運営において、民間活力を生かした質の高い港湾サービスの提供が求められている。(再掲)

◆方針4 港湾・漁港施設の有効利用や適切な維持管理の推進
~既存施設の有効活用~
 ○遊休施設など既存ストックを活用した新たなニーズへの利用転換
 ○港湾施設の利用を促すサービスの充実やポートセールスの推進 など
~効果的で適切な維持管理の推進~
 ○△デジタル技術を活用した効果的・効率的な維持管理の推進 など

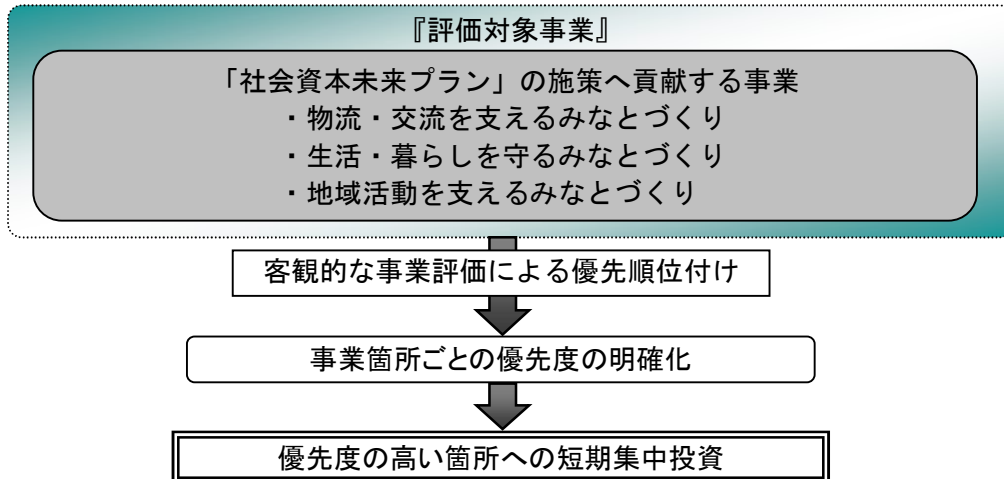
共通施策
 ~社会資本の適切な
 維持管理の推進~

効果を高めるための施策
 デジタルトランス
 フォーメーション
 (広島デジラ構想)の推進

II 実施計画

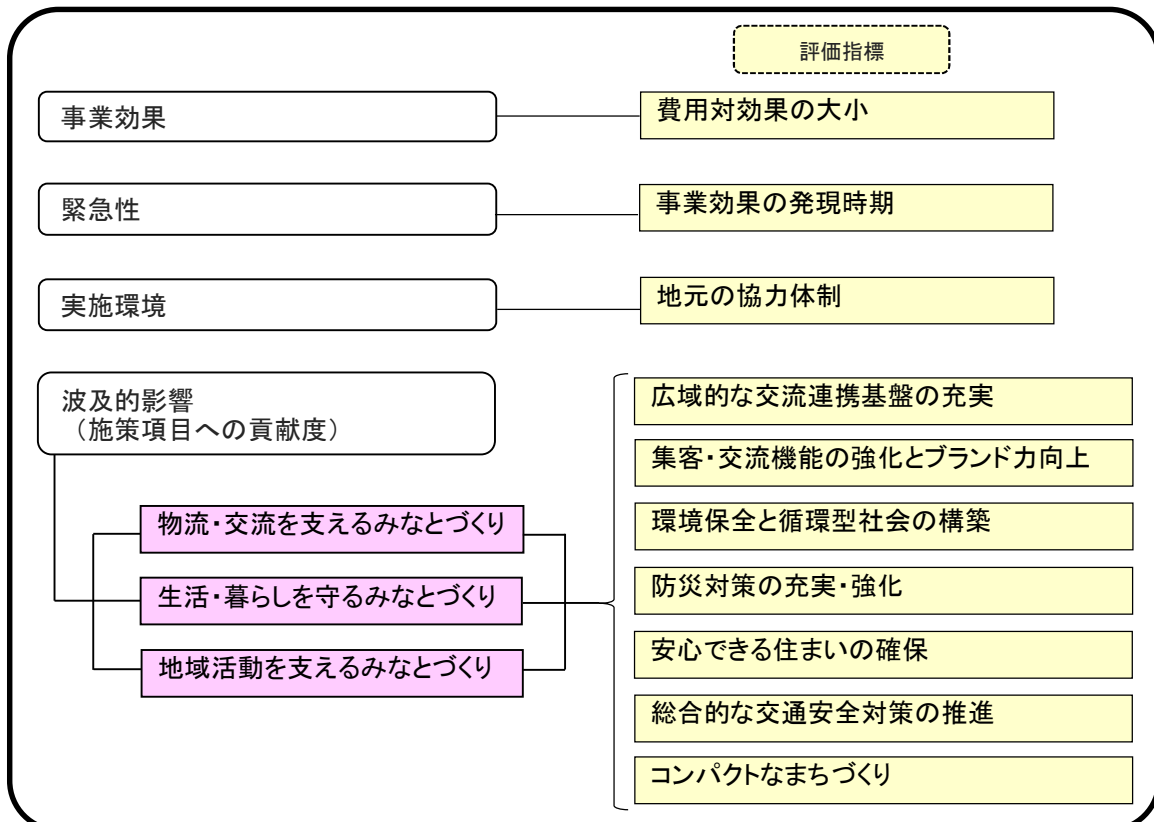
□優先度評価

- 港湾・漁港整備事業については、「選択と集中」による戦略的な整備を推進し、「早期効果の発現」を図るため、客観的な評価基準を用いた優先度評価によりA、Bの段階に分類する。
- 中でも特に重点的な投資が必要な事業は、優先度Aの最優先事業として評価する。
- 港湾整備事業と漁港整備事業の優先順位は、区別して評価する。



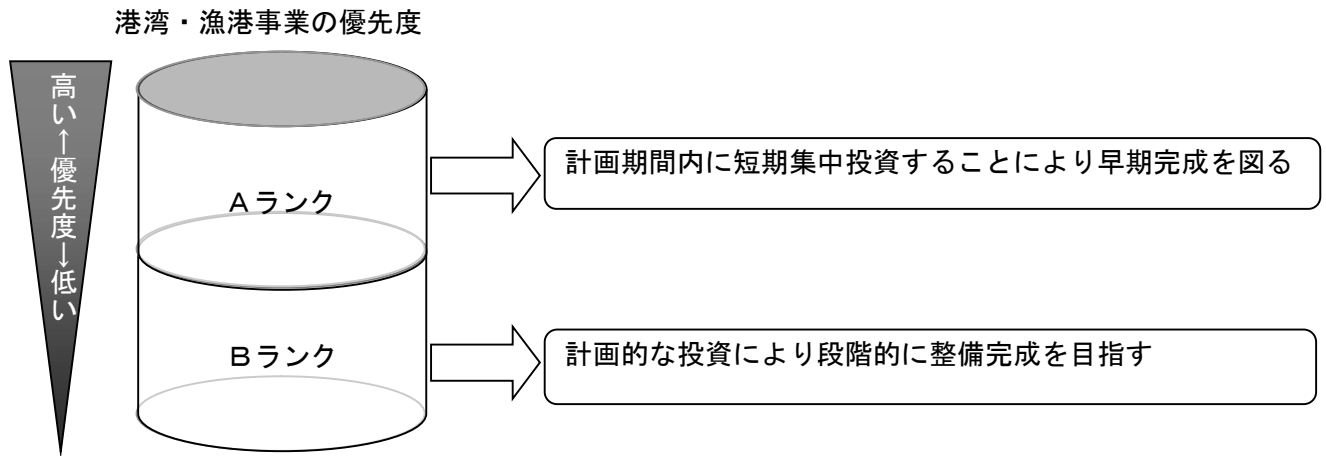
□優先度評価指標

評価指標は次に示すとおり、事業箇所毎に各指標別の評価を行い、合計点を算定します。
(港湾・漁港共通)

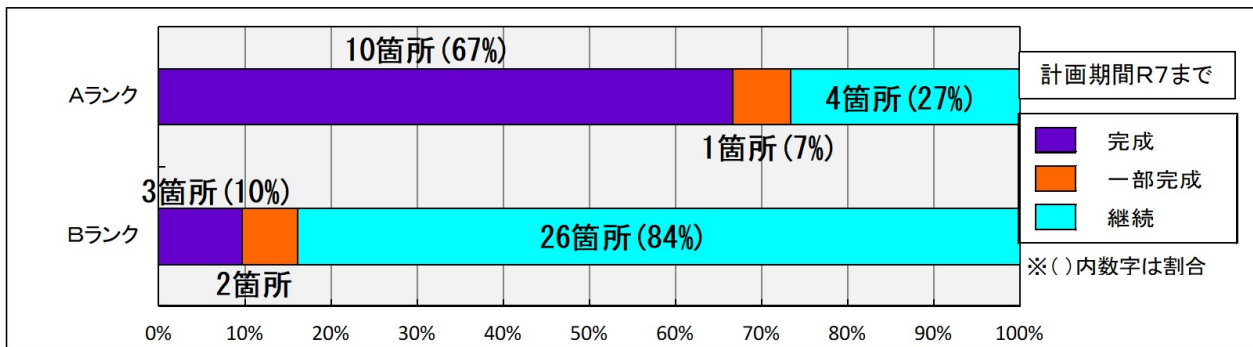


□優先度ランクごとの対応方針

優先度評価 A, B 別の対応方針は次に示すとおりです。



□実施計画



主な事業実施箇所は、次に示すとおりです。

○港湾整備事業

区分	主な事業箇所			箇所数
完成	広島港	廿日市・五日市地区	臨港道路	(5箇所)
	厳島港	宮島口地区	臨港道路, 緑地等 など	10箇所
一部完成	福山港	箕島・箕沖地区	岸壁, 航路, 泊地	(1箇所)
	大竹港	小方・飛石地区	臨港道路等 など	3箇所
継続	尾道糸崎港	機織地区	泊地・航路等	(8箇所)
	釣士田港	藤の脇地区	防波堤 など	25箇所
合計	上段()は新規箇所数			(14箇所) 38箇所

○漁港整備事業

区分	主な事業箇所			箇所数
完成	走漁港	本浦地区	防波堤	3箇所
	音戸漁港	鯛浜地区	浮棧橋 など	
継続	倉橋漁港	本浦地区	防波堤, 浮棧橋	(3箇所)
	倉橋漁港	室尾地区	防波堤 など	5箇所
合計	上段()は新規箇所数			(3箇所) 8箇所

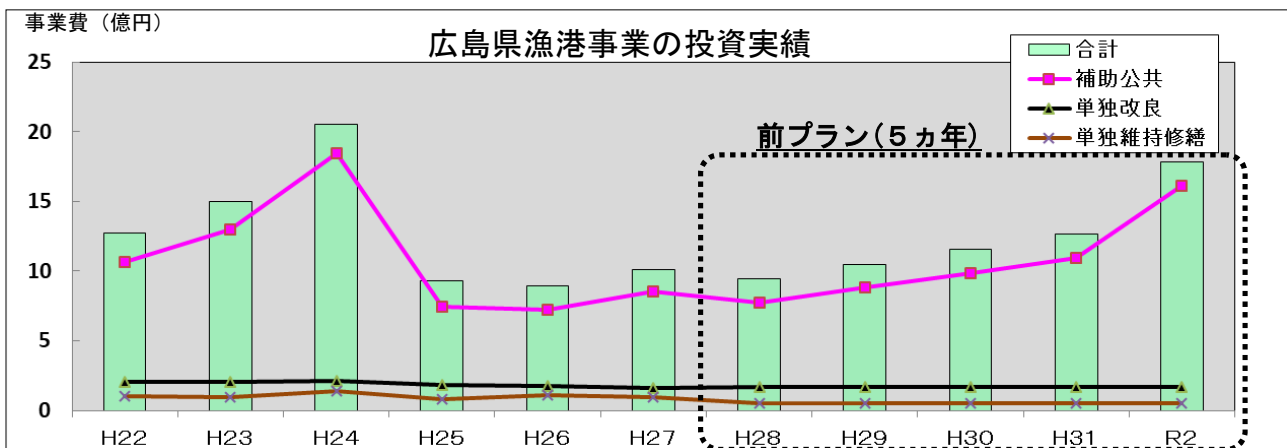
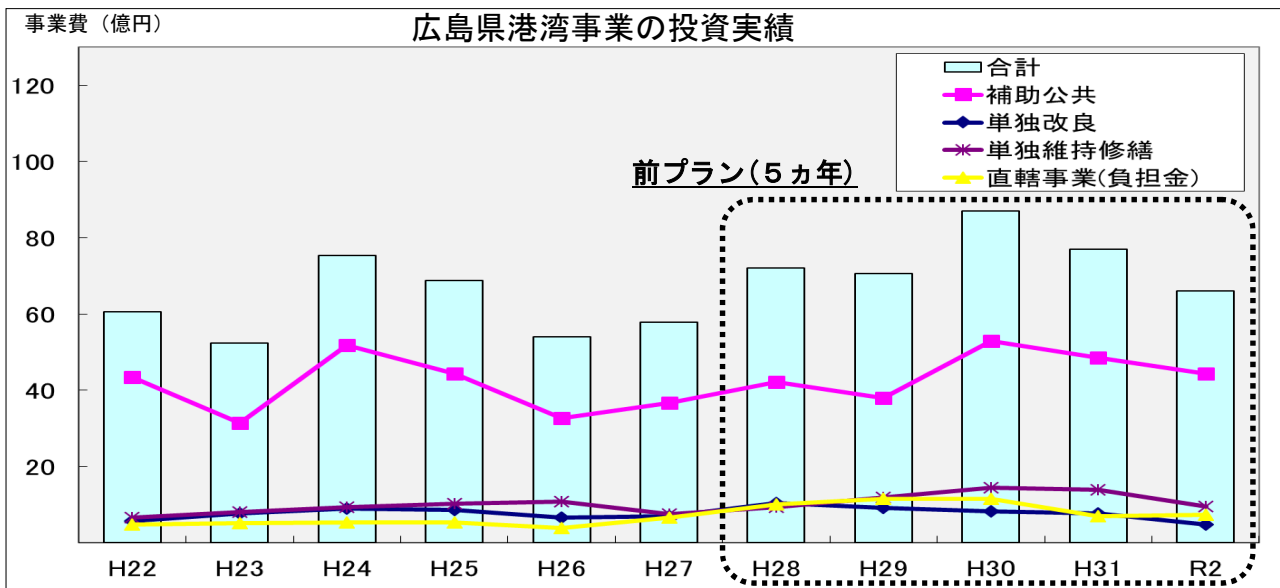
□投資予定額

投資予定額は、「中期財政運営方針」を前提として、「社会資本未来プラン」における、社会資本整備の優先順位を踏まえて、設定しています。

■ 投資予定額 : 概ね410億円

区分	事業別	R3～R7事業費
港湾	補助公共事業費	約 228 億円
	単独公共事業費	建設事業費 約 47 億円 維持修繕費 約 26 億円
	直轄負担金	約 60 億円
	合計	約 361 億円
漁港	補助公共事業費	約 42 億円
	単独公共事業費	建設事業費 約 8 億円 維持修繕費 約 3 億円
	合計	約 53 億円
	総計	約 414 億円

【参考】



◆方針1 物流・交流を支えるみなとづくり

【取組1-1】～企業活動を支える物流基盤の強化～

【取組内容】

地域産業のグローバルな経済活動を支えるため、大水深岸壁の整備など港湾物流基盤の機能強化やデジタル技術を活用した荷役の高度化・効率化を図るとともに、利用者のニーズの高い航路を誘致するなど、瀬戸内海全体における国内外の港湾物流ネットワークの拠点としてのグローバルゲートウェイ機能の強化に取り組みます。

また、企業活動の生産性の向上や地域活動の活性化に繋がる輸送・移動の円滑化のため、井桁状の高速道路ネットワークや幹線道路へアクセスする臨港道路の整備を推進します。

【具体的な取組】

- 企業活動のグローバル化や船舶の大型化に対応するため既存施設を有効活用した大水深岸壁、航路・泊地の整備など港湾機能の拡充
 - ・地域産業の持続的発展やアジア諸国等との交易拡大を支える港湾機能の強化、効率的に多くの貨物を海上輸送するための港湾物流基盤の整備(国際戦略港湾、国際バルク戦略港湾等)
～広島港出島地区・宇品地区、福山港箕島・箕沖地区、本航路(大型船舶に対応した岸壁整備、航路・泊地の水深確保)、尾道糸崎港機織地区(大型船舶に対応した航路・泊地の水深確保)など
- 生産性向上など企業活動を支える臨港道路整備や物流用地造成の推進
 - ・県西部の物流拠点における広島市東西を結ぶ物流交通基盤の充実
～臨港道路廿日市草津線(広島港五日市・廿日市地区)など
 - ・臨海部における物流関連用地の造成、港湾物流基盤の充実
～広島港出島地区、尾道糸崎港貝野地区(建設土砂等受入施設整備及び物流関連用地の造成)、広島港江波地区、大竹港東栄地区、忠海港忠海地区(臨港道路の整備)など
- 港湾サービスの充実およびポートセールス活動の推進
 - ・瀬戸内海全体における最適な港湾物流ネットワークの形成
～東南アジア航路をはじめとした国際コンテナ航路の拡充、利用者ニーズを踏まえた新たな輸送モード/サービスの構築、港湾運営会社である㈱ひろしま港湾管理センターと連携した集荷促進など
 - ・高度な流通加工等に対応したロジスティク機能の充実・強化
～効率的なターミナル運営、デジタル技術を活用した荷役機械の自動化・遠隔操作化の推進など

広島港国際コンテナターミナル(出島地区)



福山港国際コンテナターミナル(箕沖地区)



広島はつかいち大橋完成イメージ

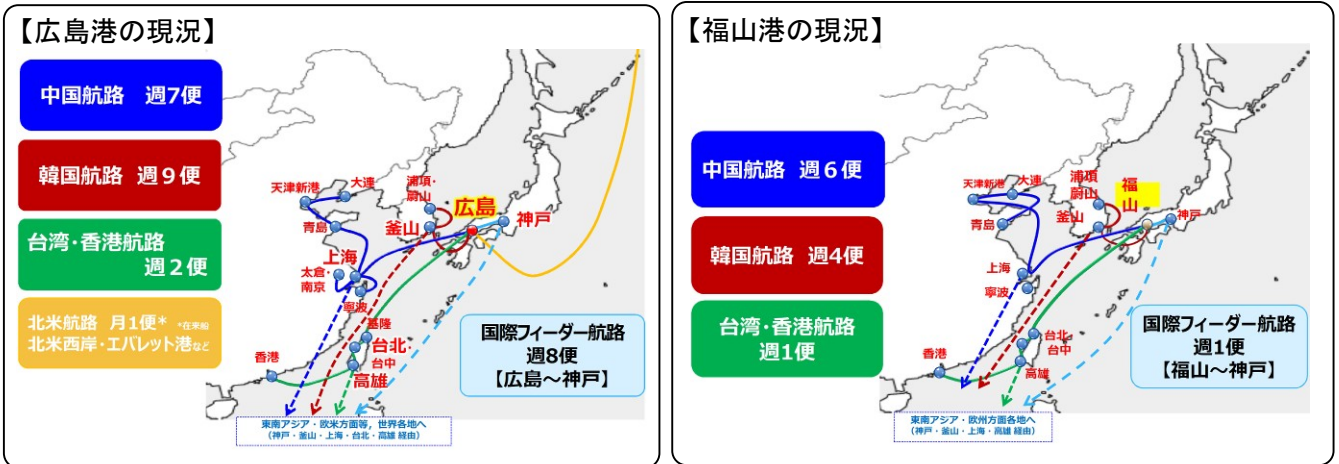


港湾サービスの充実およびポートセールス活動の推進

～港湾・漁港施設の有効利用や適切な維持管理の推進【方針4と共通】～

広島港のコンテナターミナルにおける港湾運営会社(株)ひろしま港湾管理センター)や多様な関係者と連携し、インセンティブ等の活用による効果的な集荷促進や利用者ニーズの高い航路の誘致などポートセールスを展開するとともに、デジタル技術も活用した質の高い港湾サービスの提供に取り組めます。

◇ 定期航路の現況 (R2.12時点)



◇ 広島港の拠点性の向上に資する港湾運営会社によるコンテナターミナル運営

コンテナターミナルの運営業務

- ① 利用者ニーズに応じたサービスの提供
- ② 船社・荷主への戦略的なポートセールス活動
- ③ 港湾施設の効率的な維持管理

港湾運営会社制度の導入 (H29.2)

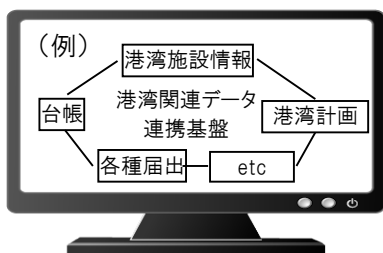
港湾運営会社が港湾施設(広島港国際コンテナターミナルと海田コンテナターミナル)を長期的・一体的に借り受け、利用料金を自ら設定し、港湾運営を行うことにより、民間の経営手法を活かした運営の効率化やきめの細かい営業活動で得られた収益を原資とし、利用料金の値下げやインセンティブのための投資を行うことで、航路拡充や貨物量の増加が期待され、広島港の拠点性の向上に寄与していく。



◇ デジタル技術を活用した港湾サービスの提供に向けた取組

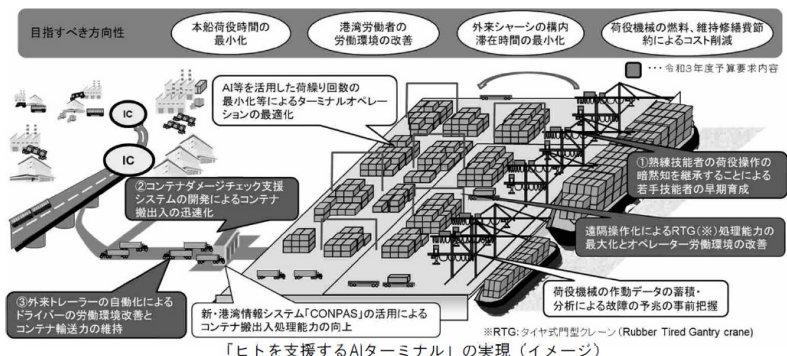
◆ 港湾関連データ連携基盤の構築に向けた取組

港湾に関する情報を電子化することで、情報の利活用による利便性・生産性を高める「サイバーポート」の実現を目指す。



【期待される効果】

- ・施設情報と利用状況など、利用者への多様な情報を提供
- ・手続きの電子化により、申請作業の簡素化・利用促進に寄与
- ・将来的に、港湾の開発、利用及び保全に関連する機能を付加



出典：令和3年度港湾局関係予算概算要求概要(令和2年9月国土交通省港湾局)

◆方針1 物流・交流を支えるみなとづくり
【取組1-2】～交流・賑わい機能の強化～

【取組内容】

本県が有する豊かな自然や魅力的な観光資源を更に生かした地域活性を図るため、世界遺産「厳島神社」をはじめとする観光の玄関口における港湾施設の充実を図ります。

また、中四国における国内外のビジネス・観光等の交流の入口として、みなとの機能強化に取り組むとともに、感染症対策も含めた安全で快適なクルーズ客船の寄港環境の整備やニーズを踏まえた多様なアクティビティの発信など、スーパーヨットやプレジャーボート等による海からの観光地訪問や瀬戸内へのクルージングの推進を図り、本県を訪れる方々の満足度やひろしまブランドの更なる向上に取り組めます。

【具体的な取組】

- 瀬戸内海や県内の魅力を活かした観光振興に資するみなと環境の整備 など
 - ・世界遺産「厳島神社」を始めとする観光の玄関口における港湾施設の充実
～厳島港宮島口・胡町地区（旅客棧橋等整備）など
- 地域の活性化に資するクルーズ客船の誘致や受入環境の充実に必要なハード・ソフト対策
 - ・クルーズ客船の誘致に向けた港湾施設整備，寄港時のおもてなしの充実
～広島港宇品地区（岸壁延伸，クルーズターミナル整備），
ニーズを踏まえた多様なアクティビティの発信，関係機関と連携した感染症予防対策の実施など
 - ・スーパーヨットやプレジャーボート等による海からの観光地訪問など新たなクルージングの推進
～尾道系崎港（プレジャーボート等の受入施設整備），
快適な海洋レジャーの振興を図るポータルサイトを活用した情報発信など



◆方針2 生活・暮らしを支えるみなとづくり
【取組2-1】～防災・減災対策の推進～

【取組内容】

切迫している南海トラフ地震の発生や近年の台風の大型化などを踏まえ、港湾・漁港の耐震強化岸壁等の防災拠点となる施設整備を推進するとともに、漁港においても発災後から速やかに業務継続が図られるようBCPを策定するなど、ハード・ソフトの両面から対策を推進していきます。

【具体的な取組】

- 切迫する巨大地震に対する耐震対策の推進
 - ・港湾・漁港施設の耐震強化岸壁整備等の推進
 - ～広島港宇品地区・福山港箕沖地区（耐震強化岸壁）、草津漁港草津地区（耐震強化栈橋）など
 - ・防災拠点としての港湾施設の機能向上
 - ～尾道糸崎港機織地区・松浜地区など
- 地域水産業の災害発生後の業務継続に資する漁港BCPの策定 など
 - ・漁港における水産物の生産・流通に関する業務継続計画の策定
 - ～草津漁港



◇ 漁港BCPについて（イメージ）

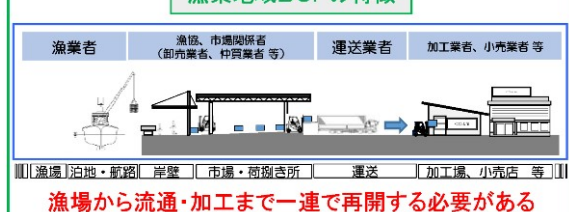
漁港において、「大規模災害などで被害を受けても重要業務（水産物の生産・流通）が中断しないこと」、「中断しても可能な限り短い期間で再開すること」を目的とした水産物の生産・流通に関するBCP（Business Continuity Plan：業務継続計画）の策定を進める。

漁業地域が大規模災害を受け甚大な被害を受けると水産物の生産・流通機能が長期間停止する恐れがある

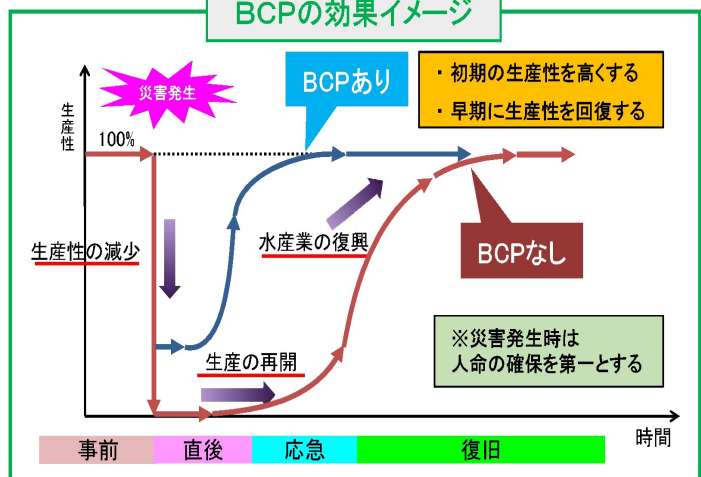
事業継続計画（BCP）
・被害を低減する対策の計画・実施
・被災後の復旧方法を事前検討

被災時に円滑な水産物の生産・流通機能の再開が実現

漁業地域BCPの特徴



BCPの効果イメージ



◆方針2 生活・暮らしを支えるみなとづくり
 【取組2-2】～安全で快適な海上交通機能の維持・充実～

【取組内容】

プレジャーボート等の係留保管施設の整備や禁止区域の指定, 既存インフラを活用した適正な係留保管を推進するとともに, 生活航路等を安心して利用できる環境整備など, 安全で快適な海上交通の確保に取り組みます。

また, 島嶼部と本土を結ぶ海上交通結節点となる港湾機能の維持・充実や主要施設におけるバリアフリー化を推進するとともに, 港湾・漁港施設の機能維持・強化を図ります。

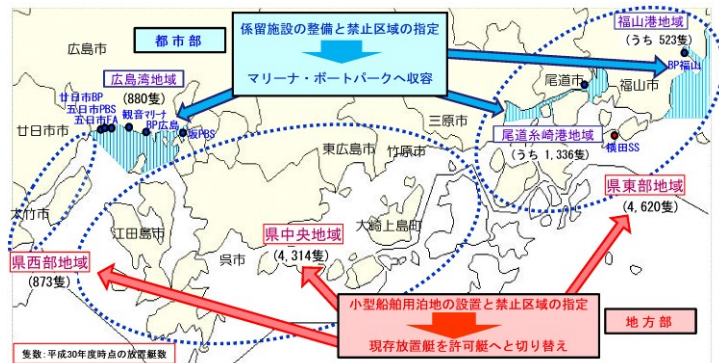
【具体的な取組】

- 放置艇対策の推進に向けたハード・ソフト対策
 - ・ 放置艇対策の推進（船舶航行の安全確保）
 - ～尾道系崎港松浜・山波地区（プレジャーボート係留施設整備）など
- 島嶼部を結ぶ生活航路の維持, 利用環境の充実
 - ・ 生活航路等における安全で快適な利用環境の整備
 - ～三高港三高地区（浮棧橋）など
 - ・ 島嶼部と本土を結ぶ海上交通結節点となる港湾機能の維持・強化
 - ～大西港, 三高港, 大竹港（浮棧橋等整備）など
 - ・ 主要施設のバリアフリー化の推進
 - ～厳島港胡町地区

放置艇ハード対策



放置艇ソフト対策



歩行者通路バリアフリー化イメージ



◆方針2 生活・暮らしを支えるみなとづくり

【取組2-3】～環境保全や資源循環を支援するみなと空間の創出～

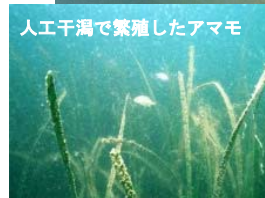
【取組内容】

豊かで美しい自然環境を保全するとともに、地球温暖化への影響を低減させるため、自然環境・生態系に配慮したインフラ整備や資源の有効利用や長距離輸送を担うドライバー不足を解消し物流効率化・CO2削減に寄与する海上輸送と陸上輸送の連携など、環境への負荷が少ない持続可能な社会の構築に向けた取組を推進します。

【具体的な取組】

- 自然エネルギー燃料の効率的な輸送・保管を図るための港湾機能の充実
 - ・バイオマス等自然・再生エネルギー燃料の効率的な輸送・保管を図るための港湾機能の充実
 - ～尾道系崎港機織地区（航路・泊地等の水深確保）【再掲】など
- 災害発生土砂や公共残土・浚渫土等建設副産物の有効活用に資する受入施設整備
 - ・浚渫土等の受入施設整備の推進
 - ～広島港出島地区、尾道系崎港貝野地区（建設土砂等受入及び物流関連用地の造成）【再掲】など
- 海域環境の改善（藻場・干潟）
 - ・藻場、干潟等の浅海域の保全・再生
 - ～尾道系崎港機織地区（航路泊地の浚渫土砂を活用した干潟造成）など
- モーダルシフトの推進 <環境負荷の少ない物流体系への転換支援>
 - ・内航船サービスの拡充及び利用促進
 - ～国内RORO船・フェリー船定期航路の誘致及び必要な施設整備、内航船利用者に対する支援制度の拡充 など

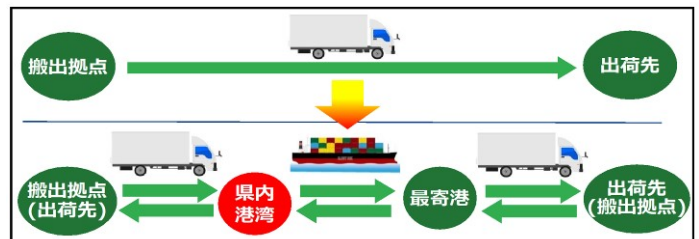
◇ 浚渫土砂を有効利用した干潟の造成（尾道系崎港機織地区国際物流ターミナル整備事業）



◇ 災害発生土砂や公共残土・浚渫土等の受入施設 ◇



ドライバー不足や環境負荷を緩和する輸送体系の転換支援



国内の中長距離輸送を内航海運にモーダルシフトすることで陸上輸送を担うトラックドライバー不足を解消し、物流効率化・CO2削減に寄与する。



例：RoRo 船によるトラック輸送と海上輸送の連携

◆方針3 地域活動を支えるみなとづくり

【取組3-1】～生活交通、漁業活動の円滑化や魅力的なみなとまちづくりの推進～

【取組内容】

島嶼部と本土を結ぶ海上交通結節点となる港湾機能の維持・充実を推進するとともに、漁業活動の拠点となる港湾・漁港施設の機能維持・強化を図ります。

また、歴史的遺構の価値保存を踏まえた護岸整備等による快適な海辺空間の提供や海の駅・みなとオアシス等を活用した臨海部の賑わいの創出など、地域の魅力を生かしたみなと環境の整備に取り組みます。

【具体的な取組】

- 島嶼部など地域を支える生活航路の維持・充実
～大西港, 三高港, 大竹港(浮棧橋等整備) など
- 漁業活動の拠点となる港湾・漁港施設の維持・充実
～音戸漁港, 走漁港, 草津漁港, 鹿川港(防波堤等整備) など
- 地域の魅力を生かしたみなと環境の整備 など
～みなとオアシスの活用を推進するための港湾施設の充実など



走漁港



三高港
完成イメージ

◇ みなとオアシスなど港湾施設を利用した地域のイベント



福山みなとまつり



福山箕沖コンテナターミナル

尾道みなと祭



尾道東御所緑地

◆方針4 港湾・漁港施設の有効利用や適切な維持管理の推進

【取組4-1】～既存施設の有効活用～

【取組内容】

国内外から訪問先として注目されている「瀬戸内」において、プレジャーボート等による海からの観光地訪問や瀬戸内海クルージングを促進するため、既存施設を有効活用した係留場所や周辺観光地について、瀬戸内クルージングポータルサイトによる情報発信等により、クルージング需要の拡大や観光振興の推進を図ります。

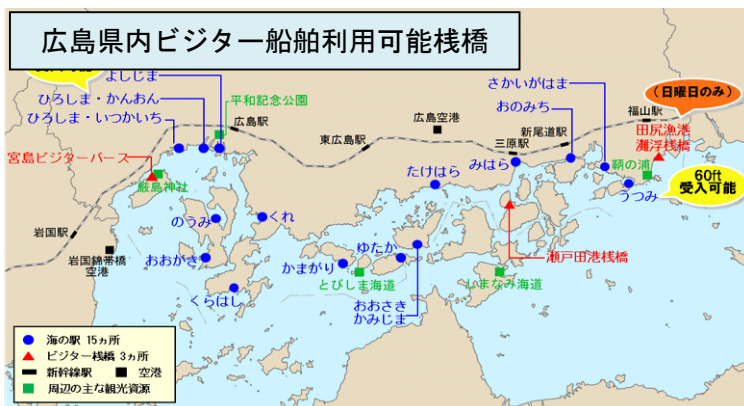
また、利用者の視点・ニーズに対応した低廉、迅速かつ安心な港湾サービスを提供するため、コンテナ航路の新規開設・増便によるネットワークの充実や、県内港への集貨促進に向けたポートセールスを展開します。

さらに、港湾・漁港施設において、老朽化・低利用化した既存機能の再編・利用高度化を図るなど、多様化する利用者ニーズに対応しつつ、既存ストックの有効活用を推進していきます。

【具体的な取組】

- 地域の活性化に資するクルーズ客船の誘致や受入環境の充実に必要なハード・ソフト対策
 - ・スーパーヨットやプレジャーボート等による海からの観光地訪問など新たなクルージングの推進～快適な海洋レジャーの振興を図るポータルサイトを活用した情報発信【再掲】など
- 遊休施設など既存ストックを活用した新たなニーズへの利用転換
 - ・港湾施設の利用転換・機能再編・利用高度化～広島港宇品地区（耐震強化岸壁）【再掲】など
- 企業活動のグローバル化や船舶の大型化に対応するため既存施設を有効活用した港湾機能の拡充
 - ・地域産業の持続的発展やアジア諸国等との交易拡大を支える港湾機能の強化【再掲】
- 港湾サービスの充実やポートセールスの推進
 - ・瀬戸内海全体における最適な港湾物流ネットワークの形成【再掲】
 - ～東南アジア航路をはじめとした国際コンテナ航路の拡充，利用者ニーズを踏まえた新たな輸送モード/サービスの構築，港湾運営会社である株ひろしま港湾管理センターと連携した集荷促進【再掲】など
 - ・高度な流通加工等に対応したロジスティック機能の充実・強化
 - ～効率的なターミナル運営，デジタル技術を活用した荷役機械の自動化・遠隔操作化の推進【再掲】など

◇ プレジャーボート等による海からの観光地訪問など新たなクルージングの推進



県営の港湾ビジター桟橋や海の駅，漁港桟橋のビジター船利用の促進にも取り組み，これらの桟橋情報等クルージング関連情報を瀬戸内クルージングポータルサイト等で幅広くPRし，クルージング需要の拡大や観光振興の推進を図ります。

瀬戸内クルージングポータルサイト

- ・係留施設情報
- ・周辺観光施設
- ・クルージングコース
- ・施設間の移動距離・時間 などの情報提供

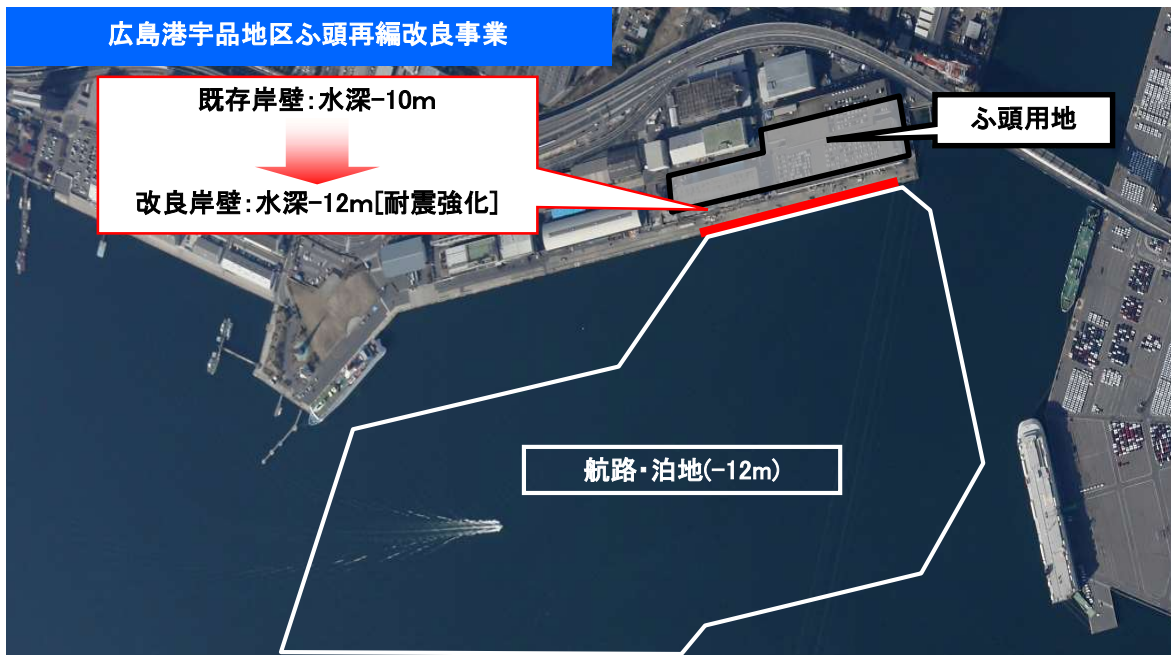
今後は利用者ニーズ等を踏まえサイトを拡充

◇ 遊休施設など既存ストックを活用した新たなニーズへの利用転換



◇ 港湾施設の機能再編・利用高度化

老朽化により大規模補修が必要となっている岸壁を、大型船舶対応に再編するとともに、耐震強化岸壁としての改良も行っていきます。



◆方針4 港湾・漁港施設の有効利用や適切な維持管理の推進

【取組4-2】～効果的で適切な維持管理の推進～

【取組内容】

「インフラ老朽化対策の中長期的な枠組み」、「修繕方針」等に基づき、デジタル技術も活用した効果的・効率的な維持管理を推進していきます。

また、港湾・漁港区域内に多数存在するプレジャーボートの放置艇について、国の推進計画に基づき対策を着実に推進するため、暫定係留区域の指定などの暫定措置も視野に入れつつ、プレジャーボート係留保管計画の見直しを行うなど、放置艇解消に向けた取組を推進します。

【具体的な取組】

○修繕方針の策定

～効果的かつ効率的に施設を維持するため、アセットマネジメントシステムを活用した、着実な予算確保による計画的な維持管理を推進

○デジタル技術を活用した維持管理の推進

～みなと情報カメラによるリアルタイム情報の提供、UAV（ドローン等）を利用した施設点検、BCPポータルサイトの拡充

○プレジャーボート係留保管計画の見直しによる放置艇対策の着実な推進

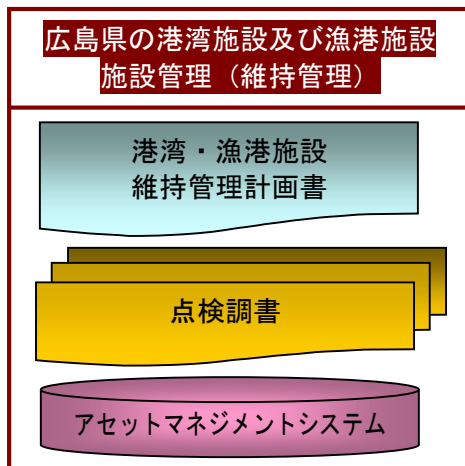
～「放置艇解消のための基本方針」策定

修繕方針の策定

【修繕方針の5つの基本的な考え方】

- 1 変状および劣化の発生を前提
⇒全ての施設は劣化する
- 2 事後保全から予防保全への転換
⇒変状および劣化による性能低下を事前に防止する「予防保全」に
- 3 主要部材とその他部材等の区分および維持管理レベルの設定
⇒部材を区分し、それぞれの特性に合った維持管理レベルの設定
- 4 劣化の予測と実態の乖離を前提
⇒将来予測と現状は乖離するため予測の更新と乖離した場合の対応
- 5 総合評価の実施
⇒問題点の整理や代替案の検討、維持補修の基本方針を定める

【広島県の港湾・漁港施設の施設管理イメージ】



定期的な点検・評価を実施し、システムを更新する。

アセットマネジメント点検調査

ス/シ/NO	1	部材名	コーナー金物	ス/シ/NO	1	部材名	マンホール
写真NO	2	判定	a	写真NO	4	判定	b

デジタル技術を活用した維持管理・施設情報発信の推進

UAVを活用した不可視部等の点検



湾岸カメラにより臨港道路の混雑情報をリアルタイム発信



瀬戸内クルージングの各種情報をPR
・施設情報、クルージングコース、施設間の移動時間
⇒ 利用者ニーズ等を踏まえサイトを拡充

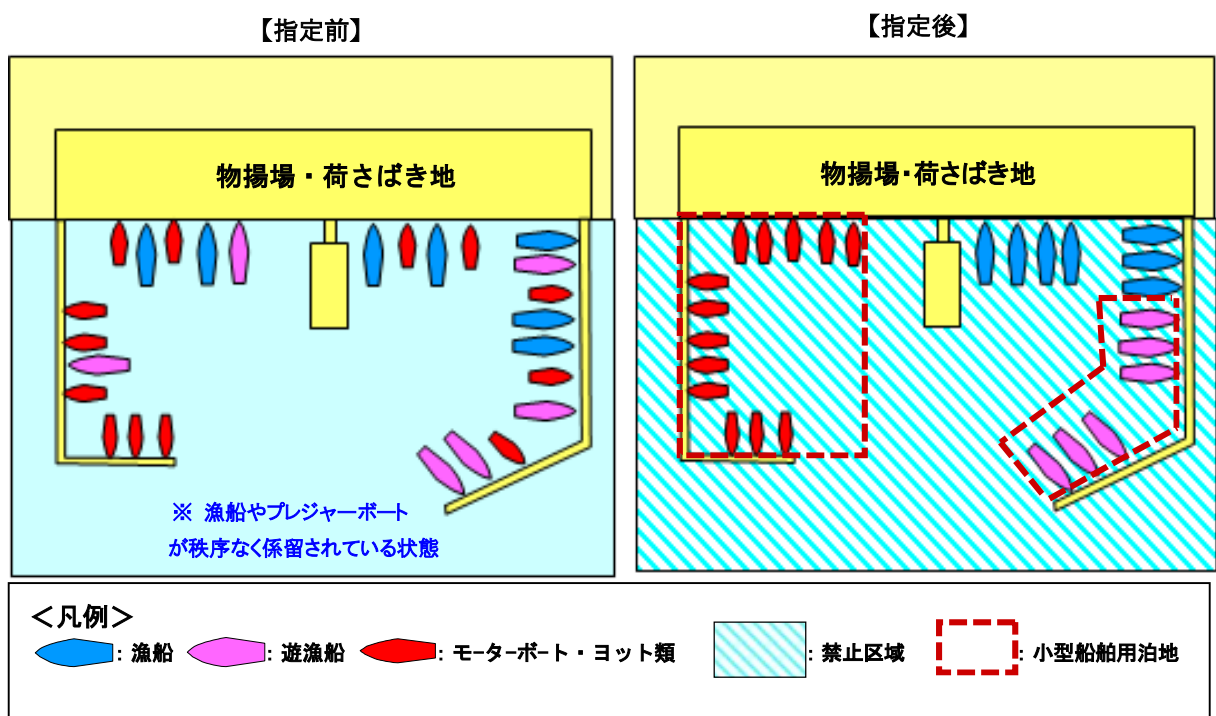


プレジャーボート係留保管計画の見直しによる放置艇対策の着実な推進

「放置艇解消のための基本方針」策定（平成29年度）

- ・ 従前の施設整備と規制を両輪とする対策のほかに、既存ストック（港湾・漁港内の水域施設等）を活用した保管場所「小型船舶用泊地」の確保により保管能力を向上させ、全県的に放置艇対策を加速。
⇒ 令和元年度から現場着手、令和4年度末の放置艇解消を目標
- ・ 既存する放置艇を4年間で段階的に「小型船舶用泊地」へ収容し、許可艇に切り替える。
- ・ 同時に放置等禁止区域を指定し、全県的に規制を強化する。

<放置艇解消のための基本方針に基づく小型船舶用泊地・禁止区域指定のイメージ図>



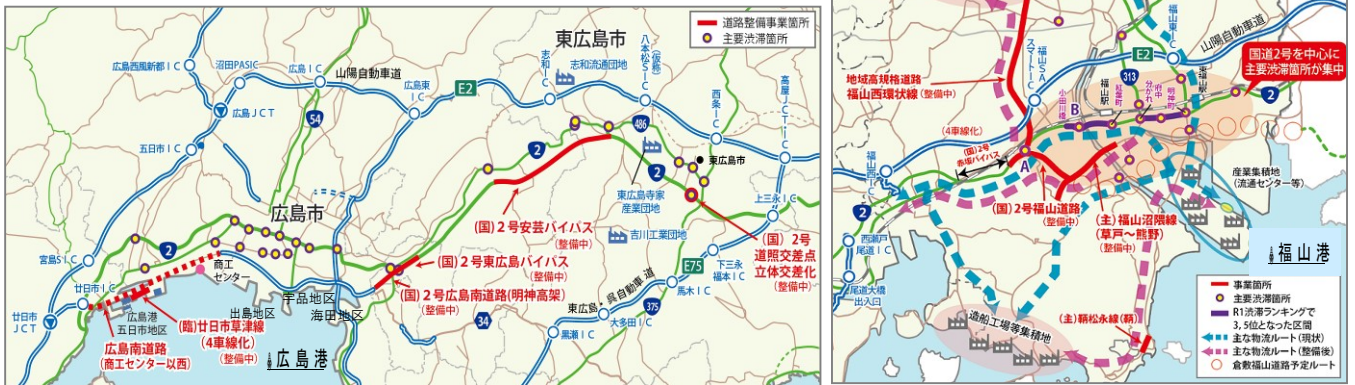
□他事業との連携

～道路事業・観光振興・産業振興との連携～

1 道路事業との連携

物流機能を強化する広域ネットワークを構築するため、岸壁や臨港道路等の港湾事業と道路事業が連携して事業を推進します。これにより、企業等の生産性向上や県内港への集貨促進や利用拡大が図られ、港湾の競争力の強化に寄与します。

◇ 道路と連携した物流ネットワークの構築



2 観光振興との連携

豊かで魅力ある観光資源を一層活かすため、観光資源をつなぐネットワークの強化や、アクセス改善に取り組むとともに、港湾・漁港施設を利活用した賑わい空間づくりを進めています。

②クルーズ船寄港時のおもてなし委員会との連携



②観光振興との連携例 (尾道中央ビクター棧橋)



3 産業振興（企業）との連携

県内企業の強みや社会的要請を踏まえ、企業の競争力強化、企業誘致・集積を図る取組を進めています。

③産業振興（企業）との連携例 (広島港江波地区)



Ⅲ 成果目標

「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」に掲げる施策である「交流・連携基盤」の10年後の指標（ビジョン指標）の実効性を確保するため、5年後の到達点として次のとおり目標値を設定します。

指 標 名	現状 (R2)	目標 (R7)
県内港におけるコンテナ取扱量	36万 TEU (R1)	42万 TEU
県内港から東南アジア主要港までの 外貿コンテナの海上輸送日数(平均)	14日	11日
港湾に関連する新たな物流・工業用地の提供 ※1	—	+29ha
港湾における緊急物資供給可能人口カバー率 ※2	33%	53%
B C P策定漁港数 (第3種漁港 ※3)	0%	100%
みなとオアシス登録数	13箇所	15箇所
ビジター船舶係留可能箇所数	18箇所	19箇所
ビジター棧橋の年間利用隻数	約4.7千隻・日 (R1)	6.7千隻・日
放置艇隻数	約11千隻 (H30)	0隻

※1 令和3年度から令和7年度の期間中において、新たに利用や引渡しが可能となる用地面積

※2 耐震強化岸壁により緊急物資の供給が可能となる人口割合。

※3 利用範囲が全国的な漁港

